

# 8月月例労働経済報告のポイント

## 一般経済

○ 景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

- ・輸出は、緩やかに増加している。生産は、緩やかに持ち直している。
- ・企業収益は、改善している。設備投資は、下げ止まっている。
- ・企業の業況判断は、改善している。ただし、中小企業を中心に先行きに慎重な見方となっている。
- ・雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・個人消費は、持ち直している。
- ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

○ 先行きについては、当面、雇用情勢に厳しさが残るものの、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、企業収益の改善が続くなかで、景気が自律的な回復へ向かうことが期待される。一方、アメリカ・欧州を中心とした海外景気の下振れ懸念、金融資本市場の変動やデフレの影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。また、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

## 労働経済

○ 労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 6月の完全失業率（季節調整値）は5.3%で、4ヶ月連続で前月差で上昇（0.1ポイント上昇）。
- ・ 就業者数（季節調整値）は6,225万人で、5ヶ月ぶりに前月差で増加（4万人増）。
- ・ 雇用者数（季節調整値）は5,418万人で、3ヶ月ぶりに前月差で増加（1万人増）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.52倍（前月差0.02ポイント上昇）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.88倍（前月差0.05ポイント上昇）。
- ・ 現金給与総額（原数値・速報）は437,677円で、前年同月比1.5%増。